

19	安城	桜林小学校	ナカニシ コウヘイ
分科会番号	6	分科会名	生活科教育
			名前 中西 浩平

研究題目

仲間とつながりながら学びを深める子どもの育成

— 2年 生活科 「ぐんぐん育て！ぼく・わたしの野菜！」の実践を通して—

研究要項

1 主題設定の理由

本学級の子どもたちは、1年生で行ったアサガオの栽培について振り返ると、「アサガオはきれいに花が咲き、育てることは楽しかった」などと振り返る子どもがいたが、中には、「花がかれた」「世話をすることを忘れた」と振り返った子どもがいた。また、授業の中での話し合いの場面では挙手ができず、自信をもって自分の考えを伝えられない。伝えられたとしても、自分と仲間の考えを比べることが少なく、学びを深められていないと感じる。

本研究では、生活科「やさいとなかよし」の単元を取り上げる。2年生になり、「1年生で育てたアサガオ以外の植物や野菜を育てたい」という声があがった。子どもとのやり取りでミニトマトとキュウリが苦手な子どもが多くいた。そこで、ミニトマトとキュウリの2種類の野菜を育てることにした。自分で育てる野菜の苗を自ら買いに行き、野菜の様子に合わせて世話の仕方を工夫して育てる。野菜の生長を記録していき、野菜を育てている中で困り事や悩み事が出てきたときは、本やタブレットで調べたり、野菜名人からアドバイスをもらったりする。また、仲間同士で解決に向けて話し合い、自分の野菜の様子に合った世話をすることができるようにしていく。収穫時期を迎えると、野菜の収穫を行い、野菜パーティーを開催して野菜の報告会を行う。ただ、野菜を育てるだけでなく、最後まで愛着をもって育てるために、仲間と関わり合い、世話の仕方を工夫しながら育てることができるようにしたい。また、子どもには人・もの・ことと出会い、実際に野菜を育てることで、活動内容を把握して自分で考えて工夫し、「話したい、伝えたい、聞いてほしい」という思いをもち、自分の考えに自信をもってほしい。

2 研究の内容

(1) 目指す子ども像

- ・野菜に対する自分の考えを仲間に伝え、仲間同士の考えを認め合い、仲間と関わり合いながら自信をもって自分の考えを伝えることができる姿
- ・野菜に愛着をもち、自信をもって最後まで世話をしようとする姿
- ・野菜の様子を観察し、野菜の様子に合わせて世話の仕方を工夫することができる姿

(2) 研究の仮説と手立て

仮説1

仲間の野菜と比べながら自分の野菜の生長記録を振り返る場や、疑問や困り事、世話の仕方を話し合う機会を設定することで、仲間と関わり合いながら自分の考えと仲間の考えを比較して自分たちにできることを考え、「話したい、伝えたい、聞いてほしい」という思いをもち、自信をもって自分の考えを伝えることができるだろう。

手立て① 野菜の生長記録を振り返る場の設定

手立て② ペアやグループで話し合う場の設定

仮説2

野菜の苗を自分で買いに行き、野菜に名前を付ける活動を行うことで、自分の野菜に愛着をもつことができるだろう。また、育った野菜を自分たちで収穫して野菜パーティーを開催して野菜の報告会をする場を設定することで、野菜を育て上げた達成感を味わうことができるだろう。

手立て③ 野菜の苗を自分で買いに行き、野菜に名前を付ける

手立て④ 自分たちで野菜を収穫し、各家庭で自分が育てた野菜を使って調理をしたり、学校で野菜パーティーを開催して野菜の報告会をしたりする場を設ける

仮説 3

野菜日記と生長の記録を付け、困ったり悩んだりしたときには、本やタブレットで調べたり、仲間や野菜名人に聞いたりする場を設定する。困り事や悩み事を解決していくことで、自分の野菜の様子に合わせた世話の仕方を考え、野菜を大きく育てたいという思いを高めることができるだろう。

手立て⑤ 野菜日記と生長の記録を付ける場を設ける

手立て⑥ 困り事や悩み事を本やタブレットで調べたり、野菜名人に聞いたりする場を設ける

(3) 単元構想【32時間完了】

時	学習活動	教師の手立てと支援
つ か む	<p>1年生で育てたアサガオの振り返りをしよう【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉢を使って育てました。 大きく育てるためにアサガオに話しかけて水やりをしました。 	<p>◎愛着をもって、大切に育てたいという意欲を高められるように野菜の苗を自分で買いに行く。 ★こと 野菜の苗 苗植え</p>
	<p>育てたい野菜を決めよう【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニトマトかキュウリのどっちにしようかな。 ミニトマトを頑張って育てたいな。 	<p>◎自分にとって特別なものと、愛着をもって世話ができるように、自分の野菜に名前を付ける。 ★もの</p>
	<p>苗を植える準備をしよう【3～4】</p> <ul style="list-style-type: none"> アサガオとは違うのかな。 苗を植えるために土を準備しよう。 	<p>自分で名前を付けた野菜</p>
	<p>野菜の苗を買いに行こう【5～6】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の苗を買いに行くこと楽しみだな。 買った野菜を大切に育てよう。 	<p>◎野菜の生長をいつでも振り返ったり、話し合いの際に提示したりすることができるように、ICT機器（タブレット）で写真を撮る時間を設ける。</p>
	<p>苗を植えよう【7～9】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きく育ててね。 水をあげよう。 	<p>◎自分の世話の仕方や生長の様子についてまとめた学びの足跡やICT機器（タブレット）を見るように促す。 ★もの 学びの足跡</p>
	<p>自分の野菜に名前をつけよう【10】</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニトマトだから、ミニトマくん。 キュウリだから、きゅうちゃんにしよう。 	<p>ICT機器（タブレット）</p>
	<p>野菜の世話をしよう【11～26】</p>	
	<p>野菜の生長の違いを見つけ、世話の仕方を考えよう</p>	<p>◎気付いたことや困り感を全体で共有できるように、写真をテレビに映したり、育てている野菜を教室に配置したりして話し合いができる場を設ける。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 葉の大きさに違いがありました。 水はどのぐらいの量をあげるのがいいのかな。 <p>こまっていることはないかな</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 葉が黄色く変色しちゃったよ。 脇芽が出てきたからどうすればいいのかな。 <p>野菜会議をひらこう</p>	<p>◎自分たちで解決できない問題があるときには、専門的な知識やアドバイスを得られるようにゲストティーチャーを招く。 ★人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ミニトマトの実がなかなか大きくなりませんよ。 キュウリの形が少し変になってきたよ。 	<p>一緒に野菜を育てる仲間</p>	
<p>野菜を収穫しよう【27～28】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間や先生、家族に報告したいな。 家族と一緒に食べたいな。 	<p>野菜名人 農家の人</p>	

つ
な
げ
る

広 げ る	収穫した野菜の報告会をしよう【29～30】 <ul style="list-style-type: none"> ・真っ赤なミニトマトが収穫できたよ。 ・とても太くて大きなきゅうりができたよ。 	◎自分で野菜を育てたことによる達成感や、育てられることができた自分への成長を感じられるように報告会をする場を設ける。 ★こと 報告会
	収穫した野菜を食べてみよう【31～32】 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニトマトは甘くてすごくおいしかったよ。 ・野菜名人以外に他にどんな名人がいるのかな。 	

3 研究の実際

(1) 野菜の苗を自分で買いに行き、野菜に名前を付ける（仮説2 手立て③）



資料1
野菜の苗を買う

自分が育てる野菜に最後まで愛着をもって育てたいという気持ちを高められるように、自分が育てる野菜を自分で購入しに行くことが大事だと考えた。事前にミニトマトかキュウリのどちらを購入するかのアンケートを取った。子どもたちは育てたい野菜を決めるにあたって「ミニトマトが好きだからミニトマトを育てたい」「キュウリが苦手だから自分が育てたキュウリを食べて好きになりたい」という理由から決めていた。育てたい野菜が決まったら、小学校近くにある花屋に自分のお金を持ち、歩いて野菜の苗を買いに行く。(資料1) 買った苗を学校に持ち帰り、事前に土だけを入れておいた自分の鉢に入れ替える。(資料2) そして、自分の野菜に名前を付けることにした。野菜にちなんでミニトマトは「トマトマ」、キュウリは「きゅうま」と名付けている子どもがいた。



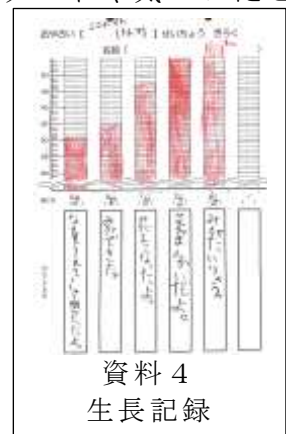
資料2
苗を植える

(2) 野菜日記と生長の記録を付ける場を設ける（仮説3 手立て⑤）



資料3
野菜日記

野菜の様子を観察・記録することができるように野菜日記（観察カード）を用意し、自分が育てている野菜のイラストや気づいたことなど、野菜の様子を記入した。(資料3) また、生長記録用紙も用意し、観察時に1m定規を使って苗の長さを測り、自分の野菜の苗の長さの記録も行った。(資料4) 週に1・2回記録することにより、野菜の生長を感じられるようにした。生長を記録していくと「葉の枚数が増えた」など成長を実感できる記録の内容もあれば、「まったく伸びない」など問題意識をもつような生長記録の内容も出てきた。また、「〇cmも伸びた」と、野菜の生長を感じたり、どうすればもっと大きく、美味しくなるのかを自分で考えたりして、工夫しながら育てようとする姿が見られた。



資料4
生長記録

(3) 野菜の生長記録を振り返る場の設定（仮説1 手立て①）

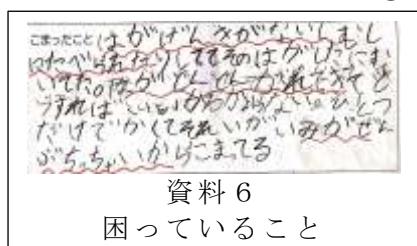
野菜の生長を記録したことを基に自分の野菜の様子を学級全体で発表し、振り返る場を設けた。ミニトマトとキュウリでは、水をあげる量やタイミング、苗の長さや葉や野菜の大きさが異なる。それぞれのやり方や野菜の様子に違いがあることで、自分の野菜と仲間の野菜の生長を比べたり、野菜の世話の仕方を比べたりしながら振り返りを行った。すると、仲間との野菜の生長の違いがあることに気づく子どもが多くいた。中には、仲間のやり方を真似する子どももいれば、自分なりに工夫する子どももいた。発表する

際には、普段から自分の考えを意欲的に伝えられる子どもから発言した。そうすることにより、自分と仲間の意見が似ていたり、同じ考えがあったりして、自信をもって挙手をし、発言することができた。また、たくさんの考えにふれ、「〇〇さんと似ていて」「〇〇さんと少し違って」というようなつなぎ言葉を使って発言することができた。さらに、振り返りを基に、学びの足跡の作成し掲示していった。(資料5) 学びの足跡に記録された仲間の体験活動からの学びを基に、自分たちにできることを考え、伝え、活動することができた。



資料5
学びの足跡

(4) 困り事や悩み事を本やタブレットで調べたり、野菜名人に聞いたりする場を設ける (仮説3 手立て⑥)



資料6
困っていること

子どもは毎朝水やりを行っているが、その際に自分の野菜の葉に元気がなかったり、虫に食べられていたりして上手く生長しないところに気付いていった。また、野菜が大きく育ってくると世話の仕方が変わってくるため、世話の仕方や「葉に元気がない」「実が全部小さい」など野菜の様子で困っている子どもがいた。(資料6) そこで、野菜日記

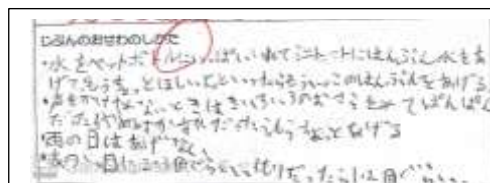
を記入する際に、困っていることや

悩んでいることを記入するようにした。すると、「野菜について調べたい」と子どもから意見が出たため、本やタブレットで調べる時間を設けた。その後、困っていることや悩んでいることを学級内で共有した。すると、自分の野菜の様子や調べたことを基に「水の量はペットボトル半分ぐらいにしているよ」「つるは支柱に巻くといいよ」とアドバイスをし合う様子が見られた。話し合い後、仲間からのアドバイスを基に野菜の世話をしていくことにすると、一度は上手くいっていたが、更に「野菜が虫に食べられてしまった」「花が咲かない」など、困っていることや悩んでいること



資料7
野菜名人からの
アドバイス1

が出てきたため、子どもだけで解決していくのは困難となった。そこで、野菜名人に登場してもらい、子どもの困り事や悩み事に対してアドバイスをしてもらうために「野菜会議」を開くことにした。(資料7) アドバイスをする際は1つの答えを伝えるのではなくて様々な方法を伝えてもらうこととし、子どもが自分の野菜の様子に合わせて世話ができるようにした。すると、子どもは「日があまり当たらないところに置いてあるから、日が当たるところに移動しよう」「自分のキュウリはまだ細いから、水の量を多くしよう」と自分の野菜の様子に合わせて世話をするようになった。その後も自分の野菜に合わせて世話をしていき、ぐんぐん野菜が育つ様子があったが、「野菜が大きくなったけどいつ収穫すればいいのかな」「ミニトマトが割れたり、下に落ちちゃったりしたよ」というような新たに悩み事や困り事が出てきた。そこで、学級で仲間の悩み事や困り事を解決するためにもう一度話し合いを行った。話し合いの結果、「大きくなったり、おいしそうになったりしたら収穫していいと思うよ」「水の量は野菜が大きくなってきたらペットボトル半分にしたらどうかな」など、世話の仕方がたくさん出され、どの方法が良いのかが話し合いではまとまらなかった。



資料8
世話の仕方

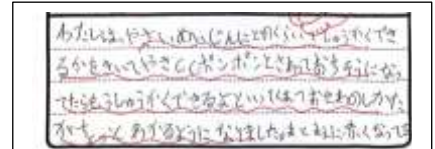
(資料8) そこで、子どもから「野菜名人に聞きたい」という意見が出たため、困り事や悩み事を解決するため再度野菜名人に登場してもらい、アドバイスしてもらうこととした。(資料9) 水の量は「野菜に話しかけ、土全体が濡れるようにして葉も野菜も元気にしてあげよう」、



資料 9
野菜名人からの
アドバイス 2

収穫時期は「ミニトマトは赤くなり落ちそうになったら、キュウリはスーパーに売っている大きさになったら収穫するといいよ」とアドバイスしてもらった。すると、子どもは「明日からは野菜に聞いて、水の量を決めよう」「ミニトマトは優しくポンポンして落ちそうだから収穫しよう」など、野菜名人のアドバイスを基に世話の仕方や収穫時期を理解していた。(資料 10) また、収穫後は「野菜名人にアドバイスをもらって上手に収穫できたから、次も大きく育てて収穫しよう」と学級全体に伝えていた。子どもの困り事や悩み

事を本やタブレットで調べる活動や野菜名人に登場してもらい話を聞いたり、アドバイスしてもらったりする活動を行うことで野菜の育て方について知識をより増やし、自分の野菜の様子に合わせて工夫しながら世話をすることができる子どもが多くいた。



資料 10
振り返り

(5) ペアやグループで話し合う場の設定 (仮説 1 手立て②)



資料 11
自分の意見を
伝え合う様子

ペアやグループで話し合う場を設定することで、自分の考えを伝えやすい雰囲気を作った。ペアでは席の隣同士だけではなく、席の前後などたくさんの仲間と伝え合ってお互いの考えを認め合えるようにした。(資料 11) 仲間の話を聞くときには発言する人の方に顔、目、おへそを向けること、また、相づちをして反応するようにし、仲間同士で認め合えるようにした。そうすることにより、ペアやグループで楽しく意欲的に伝え合う子どもの様子が多く見られ、ペアやグループで話し合ったこと

を全体で共有することができ、少しでも自分の考えに自信をもって「話したい、伝えたい、聞いてほしい」という思いをもつことができ、板書が子どもの意見でいっぱいになるまでとなった。(資料 12)



資料 12
話し合いでの板書

(6) 各家庭で自分が育てた野菜を使って調理をしたり、学校で野菜パーティーを開催して野菜の報告会をしたりする場を設ける (仮説 2 手立て④)



資料 13
野菜報告会

自分が育てた野菜が収穫時期を迎えたら自分で収穫を行う。収穫の仕方や収穫時期について事前に本やタブレットを使用して調べ、野菜名人のアドバイスを基に野菜の収穫を行った。自分が育てたミニトマトやキュウリを丁寧に収穫すると満足そうな笑顔が溢れ、仲間に自慢する様子が多く見られた。次に、収穫した野菜を自分の家に持ち帰るものと学校で行う野菜パーティーに使うものに分けた。家に持ち帰ったものは各家庭で収穫した野菜を使って調理をする。家庭の協力もあり、自分で収穫した野菜を使いながら各家庭でアレンジして調理する様子が見られた。作った料理をタブレットで写真に撮り、学級で野菜の報告会第 1 弾を行った。



資料 14
野菜パーティー

(資料 13) 野菜の報告会では、子どもたちは「自分の野菜はおいしかった」「モッツアレチーズと絡めたら美味しくてたくさん食べられた」と発表した。また、学



資料 15
野菜パーティー

校でミニトマトとキュウリを一口サイズにして一人一人に分け、みんなで一緒に食べる野菜パーティーを行った。(資料14)自分が作った野菜だけではなく、友達が作った野菜も食べることで仲間の頑張りを認められるようにした。食べた後、自分たちが作った野菜について感想を伝え合う野菜の報告会第2弾を行った。野菜の報告会を行うと、「苦手な野菜もあったけれど、みんなで育てて一緒に食べたら食べられた」「みんなが頑張って育てた野菜は美味しかった」と振り返った。(資料15)

4 手立ての有効性と仮説の検証

(1) 仮説1について(手立て①②)

野菜の生長や世話の仕方を発表する際には、普段から自分の考えを意欲的に伝えられる子どもから発言させたことで、自分と仲間の野菜の生長や世話の仕方などを比べ、似たような内容にふれることができ、自分の考えに自信がなかった子どもが堂々と挙手をし、自信をもって自分の考えなどを発言できた。また、仲間の方に体を向けて向き合い、相づちをして仲間の考えを認め合うことで、発言の様子から自分の考えに自信をもって学級全体に伝えることができた。さらに、「〇〇さんと似ていて」「〇〇さんと少し違って」というようなつなぎ言葉を使って仲間同士で意見を繋ぎながら仲間に考えを伝え、学びの足跡を作成し、学びの足跡に記録された仲間の体験活動からの学びを基に自分たちにできることを考えることができた。このことから「話したい、伝えたい、聞いてほしい」という思いをもち、自信をもって考えを伝えることができた。以上より、仮説1の手立ては有効だったと考える。

(2) 仮説2について(手立て③④)

子ども自らお店に出向いて、自分の野菜を自分で購入したことや名前を付けて育てていくことで、名前を呼びながら世話をしたり、野菜と対話しながら観察したりする姿が見られ、愛着をもって育てたいという思いを高めることができた。また、自分で野菜を収穫することで、「次も収穫できるように頑張って育てたい」という思いをもち、次に向けての気持ちを高めることができた。さらに、自分や仲間が育てた野菜を使って野菜パーティーを開催したことで、「みんなが育てた野菜は美味しく、苦手な野菜も食べられた」と振り返り、最後まで育て上げた達成感を味わうことができた。以上より、仮説2の手立ては有効であったと考える。

(3) 仮説3について(手立て⑤⑥)

野菜の生長記録を付けることで、自分の野菜の様子を知ることができた。野菜を育てていく中で出た自分や仲間の困り事や悩み事を本やタブレットで調べることで、自分の野菜の世話の仕方をより理解した。そうすることで、自分の野菜の様子に合わせて工夫しながら世話をする姿が多く見られた。子どもの調べだけでは困り事や悩み事を解決できなかったところで、困り事や悩み事を解決するための話し合いを行ったり、野菜名人にアドバイスをもらったりした。そうすることで、自分の野菜の様子に合わせて土全体が濡れるように水やりをし、優しく触って落ちそうかどうかを判断して収穫を工夫しながら世話をすることもでき、自分の野菜をもっと大きく育てたいという思いを高めることができた。以上より、仮説3の手立ては有効であったと考える。

5 今後の課題

今回の実践では一人1種類(学級で2種類)の野菜を育てたが、子どもから色々な野菜を育てたいという声が上がった。野菜によって様々な育て方や生長の仕方があることに気付けるように野菜の種類を増やしてもよかった。野菜名人に登場してもらい、子どもの困り事や悩み事に対してアドバイスをしてもらう時間を設けたが、時間に限りがあるため、事前に子どもの困り事や悩み事を伝えていたが、すべて解決することができなかった。野菜名人にアドバイスをもらう時間をもう少し確保できると良かった。自信をもって生き活きと発言する子どもは増加したが、全員とは言えない。今後も、ペアやグループでの話し合いを行い、教師や子ども同士で認め合っていくことで、「話したい、伝えたい、聞いてほしい」という思いをもつことができるよう努めていきたい。